

NetCommons を利用した市内小中学校での学校 Web サイトの運用

栃木県佐野市教育センター 指導主事 谷 直人

tanin@city.sano.lg.jp

キーワード：学校 Web サイト、CMS、NetCommons

1. はじめに

本市では、平成19年度から学校 Web サイトの活性化及び教員の異動によるサイト運用の停滞を解消することを目的とし、市内全小中学校38校でCMS『NetCommons』（以下『NetCommons』）を導入し、学校 Web サイトの運用を図っている。現在、38校中20校が正式運用を行っている。

『NetCommons』は国立情報学研究所の新井教授が中心となり開発されたネット上のコミュニケーション支援ツールで、モジュールの設置や利用方法等、情報提供の仕方が簡易であり、学校情報を適宜提供したいとする学校 Web サイト運用の目的に合致する部分が多い。また、国立情報学研究所が開発していることから、OS 的な要素が強く、公式サイトから自由にダウンロードし、活用できるなど財政的に課題のある自治体にとって費用負担の面からのメリットが大きい。本市での『NetCommons』を利用した学校 Web サイトの運用について報告したい。

2. システムの構築と学校での運用

(1) システム構築

本市においては、セキュリティ上の問題から現在、行政のネットワークサーバーに『NetCommons』を組み入れず、民間のレンタルサーバーを利用している。平成19年6月に市内全小中学校(38校)分の『NetCommons』を構築した。

なお、各学校のサイトを一括管理する目的から、FTP アカウントは各学校には発行せず、サーバーについては教育センターで管理している。教育センターにて一括管理を行うことにより、サイトのバックアップやバージョンアップ、迷惑メール対策のCGIの利用や若干のカスタマイズ等、学校に代わって行うことができるとともに、市内の小中学校(38校)で共通した運用を行うことができるようになっている。

(2) 運用規定ならびにポリシーの作成と研修会の実施

市内全小中学校での運用に先立ち、平成19年4月、本市内小中学校の教員6名を委員として委嘱し、調査研究委員会を組織した。委員会では、サーバー利用に関して「schoolnet-sano システム」運用規定を作成するとともに学校 Web サイトを作成する上での留意事項等について「学校 Web サイト作成に関するポリシー」を作成した。また、効果的な学校 Web サイト運用に向けた取り組みを平成19年度末にまとめ、運用マニュアルを作成した。

現在本市では、システムの運用と学校 Web サイト作成についてはこの規定及びポリシーに基づくよう共通理解を図った上で学校 Web サイトを正式運用するようお願いしている。写真は、平成20年7月に全小中学校の担当者を対象とした研修会の様子である。学校 Web サイト及び運用体制等を紹介するとともに『NetCommons』によるサイト作成に関する研修を実施した。なお、教育センター



写真

では、指導主事及び情報教育アドバイザーを随時学校に派遣し、サイト作成に関する校内研修への協力を行っている。(平成20年12月現在までの派遣実績 19校+1団体)

3. 今後に向けて

本市においては『NetCommons』を利用することによりソフトウェア導入の費用負担を軽減した。また、教育センターがサーバーやシステムのメンテナンス等を一括管理することにより学校での管理面での負担を軽減することができた。このため、スキルがない職員でも情報発信に簡単に関わることができ、学校 Web サイトを学校という組織全体で運用しようとする雰囲気が広がっている。

一方、本市で利用しているサーバーは同時アクセスに制限があり、『NetCommons』の機能を最大限引き出せない状況がある。また、『NetCommons』のトラブル等への対応については、公式サイトのFAQが唯一の頼りとなっており運用上の不安が常にある。

オープンソースとしての課題でもあり解決は難しいが、本市の全教職員が情報を発信する楽しさを感じ、市内全ての学校が、今以上に「開かれた、信頼される学校」となることを期待したい。